

令和7年度 学校経営計画書

学校番号	22	学校名	静岡県立沼津商業高等学校	校長名	中村 正義
------	----	-----	--------------	-----	-------

1 スクール・ミッション

伝統や実績を兼ね備えた県東部地域の商業教育の拠点校として、販売実習「沼商屋」などの行政や企業と連携した実践的・体験的な活動、地域課題を探究する活動及びビジネスマナー教育を通して、産業界及び地域社会を担う人づくりを目指す。

2 スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
【自主】 ・個々の資質と能力を伸ばし、主体的に行動する力を育成します。 ・様々な課題に対して前向きに、探究心を持って解決に導く力を育成します。 【友情】 ・他者の多様な考えや価値観を受容する寛容性を育成します。 ・他者と協力・協働し、互いを高め合う心と行動を育成します。 【進取】 ・創造性を重んじ、新たなアイデアを生み出す力を育成します。 ・目標に向かって挑戦し、最後までやり抜く力を育成します。	・多様な進路希望に対応したコースと選択科目を通じた学びを推進し、基礎学力の定着と専門的な知識と技術を習得し、高度な資格取得を目指します。 ・ICTの利活用した協働的な学びや個別最適な学びを推進します。 ・「総合的な探究の時間」におけるコミュニケーション力、ビジネスマナー等を習得するための学びを推進します。 ・授業や部活動等において、地域との交流や企業・行政等との連携による実践的・体験的な学びと課題解決力や「繋がる力」を習得するための学びを深めます。	・校訓「自主」「友情」「進取」の精神を理解し、基本的な生活習慣や規範意識を身に付け自己を高めようとする生徒を求めます。 ・ビジネスや情報技術に関心があり、本校入学時に前向きな目標を持っている生徒を求めます。 ・専門的な知識や技術の習得に加え、探究活動や部活動等に意欲的に取り組む生徒を求めます。 ・地域の課題に関心を持ち、他者との関係性を大切にし、課題解決に向けて率先して行動し、地域社会の発展や活性化に貢献しようとする生徒を求めます。

3 スクール・ポリシー具現化の柱

- ① 多様な進路希望に対応した支援・指導体制の確立と進路意識の高揚と進路実現を図る。
- ② ビジネスで求められる礼儀やマナー、倫理観、人権意識や感覚を身に付け、他者と協働し、品位ある社会性に優れた生徒の育成を推進する。
- ③ 社会の変化や生徒の実態を踏まえ、教育課程の工夫・改善を図り、生徒の基礎学力の向上、専門性の伸長、自ら学び考える力を育成するための指導体制を確立する。
- ④ 学び直しによる確かな基礎学力の定着と、学びを広げるICT活用に関する教育の充実を図る。
- ⑤ 産学官連携や保護者等と連携し、地域に根ざした教育活動を行い、開かれた学校づくりを推進するとともに、地域社会を理解し、地域に貢献しようとする郷土愛を育む。
- ⑥ 学校行事や部活動、ボランティア活動等を充実させ、健やかな心身、広い見識、豊かな感性の生徒を育成する。
- ⑦ 効果的な予算執行と、生徒・教職員の健康を保持するための教育環境の整備・充実を図る。

4 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	学校や社会のルールを順守する態度及び基本的生活習慣を身に付けるための指導を徹底する。	・教職員の共通認識のもと、統一した基準による指導を行う。 ・生徒及び保護者に校則を周知する。 ・情報リテラシー・情報モラルに関する指導や講習会を定期的実施する。 ・毎日の登校指導を実施する。	☐ 1年間皆勤 50% ☐ 校則違反、SNS 等不適切使用、交通事故・違反数が前年度より減少	生徒指導課 各学年 各教科
イ	キャリア教育の視点を踏まえた様々な取組により、生徒の多様な進路希望に対応する。	・面接・論文指導等、進路シラバスに沿った個別指導を実施する。 ・生徒・保護者の進路意識の高揚を図るための講演会や説明会を実施する。 ・行政、企業、大学等との連携による就業・就学体験を実施する。	☐ 進路決定率 100% 【学校評価アンケート】 ☐ 進路実現に向けた説明会、ガイダンス、行事の充実 進路情報・相談の充実 90%以上	進路指導課 各学年
ウ	専門学科の特色を生かして、生徒の多様な進路希望に対応する教育課程を実施する。 「主体的・対話的で深い学び」により、生徒個々に必要な資質・能力を育む。 授業（指導）と評価の一体化に取り組む。 学習習慣と基礎学力の定着と、オンライン学習の応用・活用する能力を育成する。	・主体的・協働的に学習する態度を育てるための初期指導（グループエンカウンター等）を実施する。 ・丁寧でわかりやすい授業を実施し、観点別評価を用いた授業改善に取り組み、指導と評価の一体化を図る。 ・「高校生のための学びの基礎診断」を活用して生徒の基礎学力を把握し、指導方法の見直しと改善につなげる。 ・「スタディサプリ」の利活用等により、学習習慣と基礎学力の定着を図る。 ・適度な量の課題を課すことにより、予習・復習、資格取得のための学習など、家庭学習の習慣化を図る。	☐ 教育課程検討委員会の開催 ☐ 外部講師による教員研修開催 【学校評価アンケート】 ☐ 週 5 日以上の家庭学習、基礎学力が身についたと実感できる生徒 50%以上 ☐ 月に一冊以上の読書率 70% 【資格取得】 ☐ 全商 1 級 1 種目以上 100% 会計コース 全商簿記 1 級 取得率 60% ☐ 情報技術者試験 基本情報：システムコース IT パスポート：IT コース 両コースともに全国平均以上	各教科 商業科 教務課 進路課 各学年 図書研修課
エ	学校行事や部活動の活性化等により、将来にわたり地域社会で活躍できる力強く頼もしい人を育成する。	・部活動の意義を理解し、心技体を鍛え、良好な人間関係を構築する。 ・生徒会、委員会活動における自主性・主体性を重視し、実効性のある活動により学校を活性化させる。	☐ 県大会出場 10 部活以上 ☐ 東海大会出場 3 部活以上 【学校評価アンケート】 ☐ 学校行事や部活動に積極参加し、充実している。 80%以上	生徒指導課 部活動 各学年
オ	地域との連携や、地域への情報発信を活発に行い、開かれた学校づくりを推進する。 中学校、学習塾等への広報活動を積極的に行う。 P T A 活動を整理し、主催事業への参加率を向上させる。	・産学官連携を積極的に推進する。 ・ホームページの充実を図る。 ・インスタグラム等を活用して最新情報を発信する。 ・中学校訪問や学校説明会等を通して招商の魅力や進路実績を伝える。 ・PTA 活動の整理と改善を推進する。	☐ 地域との連携事業 20 種類 ☐ HP 更新 1 週間に 1 回以上 ☐ オープンスクール 2 回以上 ☐ 中学校訪問 年間 40 校 ☐ 中学校への説明会 40 校 ☐ P T A 総会出席率 40%以上	各教科 商業科 教務課 総務課 運営委員 部活動

カ	開かれた教育課程の実現及び観点別学習状況による評価を踏まえた授業のあり方・改善を組織的・計画的に取り組む。 ギガスクール構想に対応する生徒の1人1台端末の利活用を促進する。	・観点別評価の規準を見直し、教科間で共有する。また、生徒・保護者への説明責任を明確にする。 ・公開授業週間において、他教科を含めた授業参観を計画的に実施し、教員個々の授業改善を促す。 ・1人1台端末を利活用した授業支援アプリの活用やデジタル教材、Cラーニング等を用いた効果的な授業展開について組織的に研究する。	☐ 授業評価アンケート 年2回 ☐ 公開授業週間年2回(6週間) ☐ 観点別学習状況による評価・評定 各学期 ☐ 校内外の研修機会拡大年3回 【学校評価アンケート】 ☐ 教員が指導を工夫している、授業がわかる。 90%以上 ☐ 興味関心がわく授業 80%以上	教務課 図書研修課 各教科 各分掌
キ	校務分掌等の既存組織の円滑な運営のために改善を行い、業務の機能性と教職員の適切な配置を目指す。 校務用 PC を活用した働き方改革(業務改善)を実施する。 教職員の健康維持及び資質向上に係る取組や研修を積極的に推進する。	・部活動ガイドラインに沿った、活力溢れる部活動運営に努め教職員のワークライフバランスを確保する。 ・教職員がタイムマネジメントを意識し、「定時退勤の日」の設定や校舎施錠時間(20時30分)とする。 ・出退勤管理システムによる勤務時間の管理と管理職による指導を行う。 ・多忙化解消や時間外業務の縮減を継続的に検討し、実行する。	☐ NESPCの業務活用率 100% ☐ 仕事へのやりがいを感じている教職員 80%以上 【学校評価アンケート】 ☐ 教職員が担う業務分担の適正化・合理化・平準化、相互補完が図られている。 80%以上	管理職 教職員 各分掌 部活動
ク	自ら心身の健康管理ができる生徒を育成する。 人権教育の推進を図る。 多様な生徒の支援及び特別支援の充実を図る。 効果的な防災教育・防災訓練を実施し、リスクマネジメントによる危機管理体制の強化を図る。	・特別支援学校のセンター的機能を活用した研修等を計画的に実施する。 ・いじめや悩みに対して早期に発見し対応できる体制を構築するとともに、教職員のアウトリーチを強化する。 ・教職員間の情報共有を図り、生徒が相談しやすい環境づくり、SC・SSW等専門家との連携・協働を推進する。 ・特別な支援を必要とする生徒に対して、可能な限りの配慮を行う。 ・訓練や講話を通して、教職員の危機管理意識を醸成し、災害時及び緊急時のマニュアルを全員で確認し備える。	☐ 検診の結果で通院生徒 100% ☐ いじめ・悩み調査 年3回 ☐ ケース会議の実施 ☐ 特別支援学校との連携強化 【学校評価アンケート】 ☐ 困った時に相談できる先生がいる。70%以上 ☐ 防災訓練 年2回 ☐ 交通安全教室 年1回 ☐ 施設設備安全点検 学期1回 ☐ 地域防災訓練参加率 70%以上 ☐ AED実習の実施	保健課 図書研修課 生徒指導課 教職員 総務課
ケ	法令を遵守し、正確・迅速な事務及び会計処理を行う。 予算の適正な執行に努め、学校の特色化を図る。 学校施設の保全に努め、教育環境の整備と安全・安心な学校づくりを推進する。	・職員会議にてコンプライアンス研修及び職員安全衛生委員会を実施する。 ・優先順位の高いものから効率的・効果的な予算編成及び執行を行う。 ・新校舎への移転を組織として計画的かつ円滑に進める。 ・学校徴収金の明瞭化を徹底する。	☐ コンプライアンス研修 毎月実施 ☐ 教育活動に必要な経費の確保(予算執行残額 0.5%以下) ☐ 定期監査、会計・物品指導検査等における指摘事項 なし ☐ 施設点検を月1回以上実施	教職員 事務